

第6学年西組 社会科学習指導案

学習指導者 渡部 岳史

1 単元 「安住の地を求めて ―難民問題を通して見える世界と日本の役割―」

2 単元について

(1) 「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

難民に関するさまざまな活動を調べ、時間・空間的視野や立場を広げながら難民発生の経緯や避難生活の様子等と関係づけ、その活動の意味や影響、関係する人々の思いや願いを捉え、世界平和についての解釈を再構成する力

【「思考力」の育成に向かう対話】<収束型>

紛争の解決や難民の保護に対して誰がどういう思いで何をしてきたかを基に、世界の人々が平和に暮らしていくために日本は何をしなければならないかを話し合う。

戦後70年。日本は平和主義を掲げる日本国憲法の下、奇跡の復興を遂げ、世界有数の経済大国になった。しかし、国外に目を向けると絶えず戦争や紛争が続いている。二度の大戦や冷戦、民族紛争等により難民があふれ、現在も増加の一途をたどっている。本単元では、平和な状態を当たり前と捉えている子どもたちが、現在の世界情勢を正しく理解するために、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）を中心に、難民を救う活動について調べる。そして、UNHCRの変遷や活動範囲、関係諸機関へと時間・空間的視野や立場を広げることで得た情報を相互に関係づけていく。例えば、UNHCRと連携し国連世界食糧計画（WFP）が行う食糧支援とそれを待つ難民の様子と関係づけ、難民生活の変化や、苦難を顧みずに働く人々の「命を救いたい」「安心してほしい」という思いや願いを捉えていく。このように難民のおかれた状態とそれを解決しようとする人々の営みから、世界の人々が共につながっていることを捉え、世界平和は各国や諸機関が個々に支援することで保たれるものではなく、それぞれが役割を果たし協力していかなければ実現しないものであると解釈を再構成していくのである。

その際、子どもたちが紛争や難民のことを知るだけでは、「かわいそう」「隣の国は入国を拒否するなんてひどい」と捉えてしまう。そこで、これまで調べてきたことを基に、日本と難民とのつながりを意識させ、「衣服や食べ物など生活に必要な物を送っている」「現地で難民と共に生活をしながら病気を治す支援も行っている」「お金や物を送るだけではないんだ」「戦後、支援を受けて復興したからその恩返しなんだ」「難民への支援を続けることで、経済大国としての役割を果たし世界から信頼される国になったらいいと思う」等と日本の役割について話し合っていく。このような対話を行うことで世界平和を実現するためには、互いに信頼し合い、協力していくことが大切であることを捉えていくのである。

(2) 対話への支援 <収束型の対話>

① 多様な考えが表出される授業構成 ～認識のずれを感じさせる～

国際協力について学ぶ際、一般的に、国際的な問題に対して日本人（日本）がさまざまな組織で行われている支援活動を調べ、日本の立場で支援の意味などを考え、その役割を捉えさせていく。ただ、この構成だと日本の役割についての理解が自国本意の考え方にとどまり、世界の中の日本といった外国との関係を捉えにくい。そこで、まずは日本の立場から難民支援の必要性を捉えていき、その後、日本の活動に対して世界がどのように評価しているのか考える場を設定する。外国の立場が加わることでそれまでの考えとのずれが生じ、新たな考えが表出される。例えば、「消費税を10%に上げ国民の負担を多くしてまで支援を増額しなくてもいい」と考えていた子どもも消費税が19%のドイツの立場で見ると「ドイツの消費税は日本の倍以上だよ」「ドイツは日本に対してもっと負担すべきだと思える」というようにである。日本が果たすべき役割やその理由だけでなく、「日本が外国から期待されているから増額すべき」と他国との関係にも考えが広まるのである。

② 育てるカウンセリングを生かした支援

ア 本单元の中で直接行う支援

本单元では、「この問題が起こった原因は何だろう」「この方法で行った結果、どうなったのだろう」というように因果関係で物事を見ていくことが多い。そのため友達の意見に対して疑問をもったり、追求したりすることが大切になる。Q-Uによる調査によれば、本学級には発言を途中で遮られたり発言を笑われたりする子どもが数名おり、みんなが十分に安心して発言できる雰囲気とは言えない。また、学級で行った対話に関するアンケートでは、自分の発言に対する質問や反論に答えたくないことを、発表しない理由としてあげる子どもも多かった。そこで、生活班の話し合いで友達から言われた疑問に対して一人で答えられない場合には、他の3人が協力して考える。また、全体対話の場面で友達からの追究があり、それに答えられない場合には、「みんなは、この疑問に対してどう思う」と教師がその疑問を全体へ広げ、答えられる子に発言するように促したり、再度生活班で話し合う場を設け、みんなで協力してその疑問について考えさせたりする。一方、質問した子やそれに答えられなかった子どもに対しては、「質問することは恥ずかしいことではない」「あなたの発言のおかげでみんなが考える場をもてた」等、一人の発言がみんなのためになると称賛する^{*1}ことで話しやすい雰囲気をつくる（対話の雰囲気）。また、少しでも言いやすくするには、普段から関わる機会が多く、人間関係を考慮して編成した生活班の4～5人で話し合い活動を行うのが効果的である^{*2}。無理なく相談できるという安心感をもてればよいと考える（対話の雰囲気）。

イ 本单元外での活動を想起・活用させる支援

Q-Uによる調査によれば、学級生活に対して満足している子どもが多い反面、周りから認められていないと感じている子どもが数名いる。授業の様子からも、よく考え意欲的に発言する子と周囲から認められていないといったあきらめから、発言は意欲的な子に任せればよいという無気力な子とに分かれている。そこで朝の活動において、一部の子どもだけが発言するのではなく、みんなが発言できる方法について話し合い、ルールや手順を共有する^{*3}。そのルールは、まず友達の考えを最後までしっかりと聴くことに重点をおき考えさせる^{*4}（対話の技能）。話し合いの際には、定期的に話し合いについての振り返りをカードに書かせおいたもの^{*5}をいつでも見られるようにし、必要に応じて教師が「みんなの考えた方法は何だったかな」等と呼びかけることで想起・活用できるようにする。

朝の活動 ・生活班の4人で自分たちの班の話し合いのルールなどを話し合ったり、振り返ったりする。

3 単元計画（総時数 8時間）

次	主な学習活動	対話への支援
第一 次	①戦後70年間に世界で起こった紛争を調べる。 世界の戦後70年はどのように移り変わったのだろう	①～⑧【技能】自分たちの決めたルールに沿って、4人がお互いを励まし合いながら、最後までしっかりと聴く。 ①～⑧【雰囲気】必要に応じて4人の生活班で話し合わせ、自分の考えをもてるようにする。質問に対しては、班や全体で考えるようにし、お互いに支え合えるようにする。 ②～⑥【多様な考えが表出される授業構成】日本だけでなく外国から日本の支援活動を評価する場を設定することで、日本の役割や支援を行うべき理由、各国と日本との関係にまで視野を広げ、多様な考えを表出させる。
	②～⑤難民に関する支援活動について調べる。 紛争から解決までに何が行われているのだろう UNHCRはどのような活動をしているのだろう なぜ日本の企業が難民を支援しているのだろう	
	⑥日本の役割について話し合う。【本時6/8】 なぜ日本は難民支援に多額の資金援助をするのだろう	
	⑦⑧国際平和へ向けての交流のあり方について話し合う。 なぜ、オリンピックは平和の祭典と言われるのだろう	
	広い視野で捉えた難民に対する支援活動の意義や関係する人々の思いや願いから、日本の役割を理解し、国際平和についての解釈を再構成する。	

「*」… 80頁, 81頁参照

4 本時の学習指導

(1) 目標

支援活動の実際やそれに関わっている人々の思いや願いを基にして、日本の資金援助増額の是非を日本からだけでなく、外国の立場からも話し合うことで、世界の国々が信頼し合える関係が大切であるという世界平和実現に向けた解釈を再構成することができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識
1 既習事項を振り返り、学習問題をつくる。	<p>ブータン難民に対して、UNHCRや日本の企業が衣料品やメガネ、食料などいろいろな支援を行っていたな。</p> <p>安倍総理は、私たちの税金から970億円も追加支援するんだね。国連にも世界で2番目に多く資金を出しているのにどうしてだろう。</p>
なぜ日本は難民支援に多額の資金援助をするのだろう	
2 既習事項を基にして、日本の資金援助増額の是非について話し合う。 【技能】 【雰囲気】	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 難民の命を守り安全に生活して欲しいから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 難民をめぐって周辺国が争いを起こし、平和でなくなるから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 日本は軍隊を出せないから、物資やお金で援助するしかないから。 </div> </div> <p>難民支援は世界平和実現のためにも必要だけど、消費税を10%に上げなければならないほど財政が厳しい。今まで以上に国民の生活を苦しめてまで支援をする必要があるのだろうか。</p> <p>多少苦しくなっても難民の生活を考えれば仕方がない。日本以外の国がもっと支援すればいいと思う。</p> <p>戦後日本も資金援助によって復興したのだから、恩返しの意味でもすべきだと思う。難民の生活や平和のために必要だとは思いますが、自分たちの生活が苦しくなるのは嫌だ。</p>
3 日本の資金援助増額に対する姿勢を外国はどのように評価するのか話し合う。 【多様な考えが表出される授業構成】 【技能】 【雰囲気】	<p>日本の支援活動に対して外国がどう思っているか考えてみよう。</p> <p>途上国から見れば日本は世界第三位の経済大国なのだから資金を増やして当然だ。先進国がもっと出してもいいと思う。</p> <p>先進国から見ても、日本が援助を続けることはブータン難民に対してずっと支援を続けている企業と同じように信頼できる。日本が支援を減らしたら信頼をなくすかもしれないな。</p> <p>資金援助は外国との信頼関係を築くという点でも大切なんだな。外国の立場で考えてみると日本はこれからも難民に対して資金援助をし、外国との関係をよくしていく必要があるみたいだな。</p>
4 世界平和実現に向けて、自分の考えをまとめる。	<p>日本が行う多額の資金援助は難民を助けるだけでなく、外国の信頼を得たり、世界の平和を守ったりすることにつながるな。</p> <p>世界の国々が信頼し合える関係になれば、難民の問題も解決し、世界も平和になるのではないかな。国や民族どうしが信頼し合うためにはどうすればいいのだろう。</p>

(3) 本時の支援の実際

学習活動 1

前時までに学習した難民支援について、UNHCRを中心に関係する諸機関やそれぞれの組織がどのような支援を行ったか、また、そこに携わった人々及び難民の思いや願いを書き加えた流れ図を補助黒板に提示しておく。それらを振り返った後、2015年9月20日国連総会で安倍首相が約970億円の追加の資金援助を発表した資料を提示し、学習問題を設定する。



【難民問題解決に向けての流れ図】

学習活動 2

学習問題に対して流れ図を基に難民支援が必要な理由を予想させる。消費税10%への増税や国の国債購入額を示し、予想と対比させながら「多額の資金援助が必要かどうか」をノートに書かせ、自分の考えを基に話し合いを行う。そして、各自が考えたことを全体で共通理解する場を設定し、難民問題解決が世界平和実現につながることをおさえる。その後、資金援助増額推進派と反対派の意見を抽出し対話の軸を明確にしたり、「日本人の生活」という点も加味したりして、難民に対する資金援助増額の是非を再度話し合わせる。

育てるカウンセリングを生かした支援

【技能】

4～5人の生活班で話し合う際には、自分たちが話し合って決めた、最後まで友達の意見を聴くためのルール^{*3}に沿って、お互いを励まし合いながら進める。

【雰囲気】

話し合いの中で友達の質問に答えられない場面を見つけた場合は、「それをみんなで解決して」と助言する。また、双方の議論の中で、「そう考えたのはどうしてですか」等、相手を追求する場面が見られた時は、「そのことについてはみんなで考えてみよう」と疑問を全体に広げる^{*1}。

学習活動 3

日本側からだけでは自国本意の考えにとどまってしまう、世界の中での日本の役割まで考えを深めることが難しい。そこで、日本の支援活動に対して外国の立場から見させる場を設定し、**【多様な考えが表出される授業構成】**「日本の資金増額に対して外国はどう思うか」と問う。外国といっても子どもによってイメージする国はそれぞれ違う。そこで日本と同等の経済力を持った国（アメリカ等の先進国）、今発展している国（中国等の新興国）、これから発展するような国（ブータン等の発展後進国）等さまざまな国の中から選択し、その国の立場で日本を見させる。その上で、外国の立場を加えた新たな考えと日本の立場での考えとを学習活動2と同様に生活班^{*2}と全体での話し合いを必要に応じて行き来させながら学習を進める。グループで対話する際は、どの国からの意見かが相手に伝わるように、各班に国旗を配布し、国旗を持ち考えを述べさせる。このように「外国からの意見に対して、日本はどう思うか」と日本側からも自分達の考えを言えるようにすることで、日本の役割を捉えていくと考える。

学習活動 4

日本の資金援助増額の是非について対話することで、「難民に対して多額の資金援助をすることは、難民だけでなく、各国から期待されていることであり、日本がその役割を果たすことが各国との関係をよくすることにもつながることが分かった」と世界と日本との関係を踏まえて結論づけるようになる。そして、世界がお互いに信頼し合う関係の中でそれぞれの役割を果たし、協力していくことが難民問題の解決だけでなく国際平和実現にもつながるという解釈に再構成されるようにする。

(4) 評価

支援活動の実際やそれに関わっている人々の思いや願いを基に日本の資金援助増額の理由を話し合い、世界平和実現に向けての日本の役割について発言している。

<例> 世界の人々が平和に生活するためには、日本の経済支援のようにそれぞれの国に合った支援活動を行い、お互いが分かり合えることが大切なんだな。 【方法：発言，ワークシート】

【*】… 80頁，81頁参照